

第5期瀬谷区地域福祉保健計画が今年度からスタートし、計画の推進にあたり、令和8年度第1回瀬谷区地域福祉保健計画推進懇談会を開催しました。

今回は、瀬谷区出身の大学生ボランティア団体「エスレガーレ横浜」の皆さんにもゲストとして参加していただき、世代や文化を超えた広い交流の場づくりについて、3グループに分かれ意見交換を行いました。

テーマ:取組4「様々な人と人との交流の広がりづくり」について

日 時:令和8年7月 30 日(木) 14 時~16 時

会 場:瀬谷区役所 5階大会議室

参加者:学識経験者、地域の各団体、医療関係、学校関係、行政等(19名)

エスレガーレ横浜のみなさん



地域イベントの企画運営や学生ボランティアの参加に関する活動紹介、若者の地域参加には、SNS や動画による情報発信が有効とお話でした。グループワークを通して、地域で若者の力をどれだけ必要とされているか強く感じたそうです。

(左から吉原さん、清水さん、門松さん)

【意見交換の主な内容】

- ・世代や属性を限定しない「誰でも参加できる居場所」や「交流の場」が、多世代交流や地域のつながりづくりに有効。
- ・スタッフも参加者も、「楽しい」と感じられることが大切で、そういった企画づくりが重要。
- ・子どもや若者が「悩みを相談できる大人」と出会う機会として、地域イベントや居場所づくりの役割が期待される。
- ・情報発信は口コミや掲示物も有効である一方、若い世代にはSNSを活用した発信が参加のきっかけになっている。



【学識経験者からのコメント】

「瀬谷区には包容力のある取組が数多く存在し、地域力の高さを感じた」、「対象を限定せず、誰もが参加できる取組は、あらゆる人を尊重する共生社会につながる」との講評をいただきました。

【まとめ】

各グループからは、交流の広がりを生み出すためには「誰でも参加できること」、「楽しいこと」、「情報が届くこと」が重要であるとの意見が多く出されました。また、若い世代の力を地域活動に生かすためには、活動内容が見える情報発信や参加しやすい環境づくりが大切だと確認されました。今後も様々な関りを広げながら、第5期計画の推進につなげていきます。世代や文化を超えた広い交流の場づくりについて、みなさんも、ぜひ考えてみてください。



瀬谷区地域福祉保健計画(暮らしやすいまちづくりの計画) →



南瀬谷ふれあいフェス

南瀬谷地区

6月7日、南瀬谷地区で3回目となる「南瀬谷ふれあいフェス」が開催され、雨天にもかかわらず300人以上が参加しました。高齢化など地域ニーズの変化を踏まえ、従来のスポーツフェスに代わるイベントとして、



連合と地区社協が中心となり、小中学校や地域企業などと連携した「オール南瀬谷」の取組として実施されました。当日は、中学生ボランティアや地域団体、福祉施設、消防署、警察署、企業など多様な関係者が出店し、多世代の交流の場となりました。



また、担い手不足や地域活動への関心低下を背景に、地域福祉保健計画を身近に感じてもらうための愛称づくりも進められています。中学生や住民の意見をもとに候補を作成し、地域行事での投票により選定を進めており、当日も多くの住民が投票に参加しました。新しい愛称は、今後のアンケートを経て来年決定される予定です。



子育て支援

よんたくん広場

瀬谷第四地区

瀬谷第四地区で行われている「よんたくん広場」は、子どもと大人、地域住民が交流する場として2016年から続く活動です。6月20日に開催



された第53回では、「夏に咲く花のたねダンゴを作ろう」をテーマに、14人の子どもたちが花壇に植えるたねダンゴ作りを楽しみ、その後はカレーを囲んで交流を深めました。



瀬谷第四地区社会福祉協議会を中心に、元PTAや元民生委員など地域の協力で運営されており、小中学生や保護者、父親の参加も多く見られます。学校で配布されるチラシをきっかけに初参加する家庭もあり、新たなつながりが広がっています。

また、次回の案内や地域活動の紹介を行うことで継続参加を促し、小学生から参加を続ける中学生もいます。一方で、スタッフの高齢化や担い手不足などの課題もあり、今後は新たな人材やアイデアを取り入れながら活動の充実を目指しています。

